

大使からの活動報告(2014年4月)

2014年4月23日
在グアテマラ日本大使
川原 英一

○コーヒー生産者組合(ANACAFE)訪問

4月はじめ、当国コーヒー生産者組合(ANACAFE)本部を訪問しました(左下写真;本部前でファーセン理事と)。1960年にグアテマラ国内法に基づき創設された民間機関です。グアテマラコーヒーの品質管理・向上、普及キャンペーンや生産技術の改善、生産者の生計維持、地方の教育・保健サービスの向上と多様な活動をしています。同組合本部(左写真の建物)には、バリスタ養成のための学校もあり、一般市民にも開放されています。同組合には、約9千の国内コーヒー生産者が登録しており、コーヒー輸出の際の輸出金額の1%を運営資金として納めていること、この国のコーヒー生産業者は、1ヘクタール以下の零細業者が大多数をしめ、最高級品であるSHB(Strictly Hard Beans)コーヒー産地としては、アンティグア、フライハーネスなど国内8地域が有名です。

同組合本部を視察した際、コーヒー品質検査の技師やコーヒー栽培の向上に向けた研究施設・研究者が活躍されているところを拝見しました。日本向け輸出は、米国(輸出額の45%、スターバックス、ダンキンなど大手メーカーが納入先)に次いで、2位(同17%)を占めています。メーカーで言えば、UCC、ドトール、サントリーがよく知られています。同協会理事さんから、アジア諸国への輸出を今後さらに増やしたいとの発言がありました。

◆サンカルロス大学日本語教師一行の来訪

4月7日、唯一の国立大学の本部にある言語センター(CALUSAC)のホセ・カルテロン所長及び3名の日本語教師の方々とお会いする機会がありました。同大学本部の日本語クラスは現在約200名おり、年間に4期コース(初心者の場合、レベル1~4まで)を、全体ではレベル18迄運営していますが、殆どの学生はレベル12ぐらいまでの学習で、それ以上のレベルで学ぶ学生数は、極めて少なくなるとのこと。毎年、弁論大会を大学側で主催しており、今年も5月中旬に第17回目を実施予定と伺いました。日本語を学ぶ学生達が弁論大会でどのような活躍をしてくれるのか、今から楽しみです(右上写真;左端はカルテロン所長、右側のお三方が日本語教員の方々)。



◎母子栄養管理・保健施設の引渡式典

4月8日、首都から南に100キロほど下ったところにあるエクスクイントラ県ラ・ゴメラ市(セイバ



メリア地域)で、日本の草の根無償資金協力により建設された母子栄養管理・保健施設の引渡し式典があり、出席しました。当日は、0才から5才までのお子さんがあるお母さん達、地元のボランティア、NGO(砂糖財団)関係者、ラファエル・ロペス副市長、同市職員が参加をされて、開所式が行われました。

病気予防の上から、母子の栄養改善、衛生・健康面などについて、地域ボランティア指導者(女性)の下で、20人ぐらいのグループでの研修があり、学んだことを日々の生活に実践しているとのことでした。研修施設が日本の協力で出来たことを心から感謝しますとの地域ボランティア指導者からの御挨拶があり、地元のお母さん方(上写真)と開所式をお祝いしました。このNGO団体は、母子の栄養改善啓発活動を、政府の認可を受けて全国で活動しています。この施設では、毎日、地域のボランティア指導者が常駐し、お母さん達の子供の健康相談に応じていく旨説明がありました。地域のお母さん方からは、これから施設を利用して、元気な子を地域で育ててゆきたいとお話を伺いました。

◆外交団チャリティー行事(世界の味)

4月8日夕、市内ホテルで当地外交団夫人会主催のチャリティー行事「世界の味」がありました。当日は、各国大使館が、自国の自慢の手料理を提



供する催しを毎年実施しており、今年は参加者が1千名もあり、会場が大いに賑わいました。特に、日本ブースの人気は極めて高く、行列が出来て大盛況でした。

◆日本人学校の入学式

4月12日午前、日本人学校の入学式があり、小学校と中学部への児童・生徒の入学を御父母、在校生の皆様とお祝いをしました。大変に立派な入学式でした。演壇の後ろの日章旗とともにあるグアテマラ日



本人学校の校旗(右上写真)には、上部にマヤの文化神、下部に、スペイン語のCJ(日本人学

校の頭文字)がデザインされており、とても興味深く感じました。

■八重桜に似た桃色ノウゼン(凌霄)



3月末頃から八重桜のような鮮やかなピンク色のお花(マティリスグアテ: Matilisguate)が、グアテマラ市内の至るところで咲いており、日本と同時期に花見ができました(学術名:Tabebuia rosea)。満開の時期は長くて、4月中旬頃でも、



毎日、お花見ができます。この木は、お隣のエルサルバドルの国木(Maquilishuat:マキリシュアット)となっています。

◆グアテマラから富士山ウルトラ・トレイルに参加するグアテマラ五輪委員会副会長



フアン・カルロス・サガツネ当国五輪委員会副会長は、4月25日に予定されている「ウルトラトレイル・マウントフジ(英名=ULTRA-TRAIL Mt. FUJI;外務省・文部科学省・観光庁などが後援)への参加を控えて、4月16日に当大使館を御訪問頂きました。富士山麓を一周するこの競技では、168キロを休まずに24時間かけて、標高差のある道を走り・歩くのだそうです。今や世界的に知られた

大会となっており、外国からも2百名程度、日本人は2千名程度の参加があるのではないかとのお話でした。サガツネさんは、これまでも極限状態への挑戦を続けており、例えば、大西洋を米国から欧州大陸まで5千数百キロを二人でボートを漕いで渡ったこと、カナダのユーコン地方で、厳冬期に500キロを歩くのに挑戦してゴールしたことなど伺いました。将来、南太平洋8千キロを一人でボートを漕いで渡ることを計画していることも伺いました。人間の体力の限界に挑戦し続けているグアテマラの方からお話を伺い、そのスケールの大きな活動に大変に驚きました。

◆カストロ財務大臣との懇談

4月21日、財務大臣と懇談する機会がありました。同大臣は、前大臣が健康上の理由で昨年10月中旬に辞任後、1月に入り財務次官から大臣に抜擢



されました。昨年中に今年からの予算案の議会での承認がされなかったため、昨年と同じ予算水準で今年も維持するという極めて困難な課題を抱えて日夜対応に追われています。財政基盤強化のため一昨年からの税制改革を進めているが、未だ、徴税率が中米地域でも低い水準にあり、財政基盤の

強化が課題であるとの現状説明がありました。また、現在進行中の円借款道路プロジェクトに関する意見交換も行いました。大臣から、日本がこれまで実施している各種の訪日研修、技術協力について感謝の言葉がありました。

◆中米地域シャーガス病コントロールのグッド・プラクティス集の贈呈式



4月22日、グアテマラ市内ホテルで、日本が2000年にグアテマラから手始めに取り組みを開始した中米地域のシャーガス病対策活動の結果、地域住民との協力活動で成果が上がったケースを、中米4カ国での23のグッド・プラクティス例としてとりまとめ、印刷物にして当国保健省に贈呈し、今後のシャーガス病対策活動に役立ててもらおうことになりました。保健

省からは、メンドーサ次官が出席し、日本が粘り強くシャーガス病対策活動を実施し、その結果、劇的な発生率低下に至ったことに対して、深甚なる感謝の言葉を述べるとともに、贈呈された刊行物は、地域住民と保健省が一緒になって今後の持続的取組みに役立てたいとの発言がありました。

このグッド・プラクティス集のとりまとめに尽力されたのは橋本 謙 JICA 専門家です。同人は、当初は、協力隊員としてグアテマラに赴任してシャーガス病対策活動に従事、その後、中米地域での広域専門家として現在も活躍中です。
(了)

